図書館員のキャリアと県立図書館

大谷 康晴（日本女子大学）
ootaniy@fc.jwu.ac.jp

最初に

- このところ気管支の調子が良くないので
  お聞き苦しいところがあるかもしれませんが，
  お許しください

さて

- 図書館における専門的な職員＝司書
- 司書の専門性というと……

図書館員の専門性とは何か

- 日本図書館協会　図書館員の問題調査研究委員会
  『図書館員の専門性とは何か』
  1. 利用者を知ること
  2. 資料を知ること
  3. 利用者と資料を結びつけること

  が，有名

でも，

- これってサービス業なら，当たり前のことでは？
  1. お客さまを知ること
  2. 商品（サービス）を知ること
  3. お客さまと商品（サービス）を結びつけること
- 基本は大事。しかし，ここではもう少し違った視点で……

司書に求められる資質・能力の変遷

- 個別の能力や資質以前に司書のキャリア観における対立
  - 資格取得を以って，司書として完成するか否か
  - 歴史的には，司書「講習」による養成が主体なので資格取得時点で司書として完成
  - 前川恒雄氏が即戦力志向

養成と図書館員に関する個人的な意見

- 現在の養成は，あまりに現場のHow toに固執
  - 歴史的な経緯が原因
  - 根源的な（日常にはあまり役立たないが，業務のあり方を考えるときは必要）部分の学習が希薄
  - 現実にはさらに乖離（情報資源組織あたりとか）
- 図書館で当たり前とされていることの意義やあり方をきちんと理解して，他者に説明できることが必要
- 理論として図書館の意義を伝えて，社会での議論に反映してもらう

これについての結論として

- 司書の在り方について，文部科学省の検討協力者会議の報告「司書資格取得のために大学において履修すべき図書館に関する科目の在り方について （報告）」[*1]では

基本的な考え方

「司書に必要な資質・能力は、司書資格を取得した後、図書館の業務経験や研修及びその他の学習機会等による学習等を通じて、徐々に形成されていくもの」

つまり

- 資格取得はスタートライン
- その後の自己研鑽で本当の司書になる
  ＞司書となってからのキャリアが大切

司書の能力・「資質」

- ここでいう「資質」とは，文部科学省の以下の定義（育成すべき資質・能力を踏まえた教育目標・内容と評価の在り方に関する検討会― 論点整理―(2014)）
- **「資質」とは、「能力や態度、性質などを総称するものであり、教育は、先天的な資質を更に向上させることと、一定の資質を後天的に身につけさせるという両方の観点をもつものである」**
  （原文は，田中壮一郎監修『逐条解説改正教育基本法』第一法規, 2007年から）

司書の能力・資質というと

- あまりに先天的な要素が強調されて，教育の必要性がないかのような言説が多かった
  - 「コミュニケーション力が必要」＞明朗な性格
  - 少し暗い人は図書館員になる資格がないのか？
- 個人的には，議論する時にはNGワードにしていたほど
- 文科省の発想は，教育を考える上では妥当

資質の変遷

- 図書館観に多大な影響
  - 読書指導の時代－指導者・教育者としての資質
  - そのアンチテーゼとしての「市民の図書館」では，匿名的に利用者を支える高度な技術者

資質の変遷

- 図書館観に多大な影響
  - これからは：
    - （特に都道府県立図書館の場合は）改めて，指導者・教育者としての要素
      - 上から目線ではなくトレーナーのような立ち位置

資質の変遷

- 図書館観に多大な影響
  - これからは：
    - （図書館員全般としては）個性が前面に出てもよいのではないか
      - たまにいくコンビニの店員にどこまで相手も人間であると思い入れを持てるのか

図書館員のあり方

- 匿名・無個性であることは，モジュール（交換可能な部品）になりやすい＞他で代替されやすい
- 同時にコモディティ（一般化し差別化が困難になった商品）になりやすい＞自らの価値を下げるしかない
- 利用者は図書館員を見ている
- 匿名・無個性であれば，支持は「図書館」に向かっても，「図書館員」に向かわなくなる

図書館員の能力

- 先ほどのモジュールやコモディティの議論を考えれば
- 図書館員として必要なのは，替えが効かない能力
  - たとえば，判断を伴う業務に関する能力
    - JLAの業務分析を参照
  - 図書館としての意思決定に関わる能力

取得後の自己研鑽で真の司書になる

- キャリアに関する議論と関連
- キャリアとは[*2]
  - 職務経歴（キャリアの客観的側面）
  - 仕事上での自己イメージやアイデンティティ(キャリアの主観的側面)

図書館員に限らず

- 「当初のキャリアは『筏下り』のように，次には『山登り』のように」
  - 有無をいわさず流れていく中，急場を次々と乗り越えていくことで力をつけていく
  - ずっとやっていれば，いつか急流はなだらかになってしまう＞惰性，ぬるま湯

図書館員に限らず

- 「当初のキャリアは『筏下り』のように，次には『山登り』のように」
  - 生涯をかけてもよい「山」(専門領域)を選ぶ
  - 専門知識・技術を身につけていく

図書館員ならば

- 日常の業務の中で，自分の意思や選択ではない形でやってくる急場を乗り越えていく
- ある程度の段階で自分の専門領域を選んで，身につけていく

山登り：専門領域の知識・技術を学ぶ

- 楽な方法はない
  - いろいろなところで手がかりを見つけたり，きっかけを自分でつかみにいく
  - 中には
    - 偶発的なきっかけによることも
    - 最初は不本意なことも

偶発的なキャリア

- 私自身と図書館情報学教育との関係は，
  - 日本図書館協会図書館学教育部会（当時）の役員を担当させられてから
  - さらに，図書館学教育部会からの派遣委員として，認定司書事業に関わる

偶発もあるとはいえ

- ただ待っていては「守株待兔」
- 色々と関わってみる
  - 図書館関連雑誌を見てみる
  - ニュースを収集してみる
  - イベントに参加してみる
  - 団体に所属してみる
  - 学んでみる

図書館ですから

- 図書館関連雑誌を見てみる
  - 図書館雑誌
  - 学校図書館
  - みんなの図書館
  - 図書館界
  - 現代の図書館

ニュースを収集してみる

- 日本図書館協会メールマガジン（http://www.jla.or.jp/mailmaga/tabid/285/Default.aspx）
- カレントアウェアネス（http://current.ndl.go.jp/）
- SNSとかで図書館関連ページを登録してみる
- アラートサービスに登録してみる

日本図書館協会 > ＪＬＡメールマガジン申込み

ＪＬＡメールマガジン申込み

電子メールを利用して、毎週、図書館に関する情報を提供

日本図書館協会では、2000年4月から新たなサービスとして、JLAメールマガジンを週刊で刊行しています。
JLAで入手した情報を手軽に迅速に有効に皆さまにお伝えしようするものです。発信する内容は、図書館関係ニュース、新聞記事、集会・研修等のお知らせ、求人情報、JLAからのお知らせ等々となっています。

Current Awareness Portal

カレントアウェアネス・ポータルは、図書館界、図書館情報学に関する最新の情報をお知らせする、国立国会図書館のサ

最新ニュース「カレントアウェアネス-R」（CA-R）

- 県立長野図書館・長野県信濃美術館、トークセッション「『この山どこの山？描かれた信州の山』大捜索」を開催 - 2019-02-13
- 北米研究図書館協会（ARL）、加盟図書館員の給与調査レポートの2017-2018年度版を公開 - 2019-02-13
- 大阪府立中之島図書館、「高校生または15歳から18歳限定！　ゲームで学ぼう！お金と経営」を開催 - 2019-02-13
- 米・公共図書館協会（PLA）、公共図書館による米国民の健康保険加入促進のための助成事業の第2弾の受付を開始 - 2019-02-13
- 国際図書館連盟（IFLA）、"IFLA/Systematic Public Library of the Year Award 2019"への応募受付開始 - 2019-02-13
- 米国図書館協会（ALA）、公正・多様性・包摂性に関して講演可能な専門家を検索できるデータベース"EDI Speakers Bureau"を公開 - 2019-02-13
- 人文学オープンデータ共同利用センター（CODH）、華北交通アーカイブ正式版を公開：京都大学総合博物館でも関連展示を開催 - 2019-02-12
- 米国、マラケシュ条約の批准書をWIPOに寄託 - 2019-02-12

アラートサービス

- ネット上のカレントアウェアネスサービスを実現
- Google Alertで「図書館」「ビブリオバトル」「認定司書」のニュースを1日1回配信で登録
  - https://www.google.co.jp/alerts
  - 毎日何かのニュース

Google　ログイン

アラート

図書館

頻度　1日1回以下
ソース　ニュース
言語　日本語
地域　すべての地域
件数　上位の結果のみ
メールを入力　アラートを作成　オプションを隠す

アラートのプレビュー

Google アラート

図書館
毎日更新 ・ 2019年2月12日

ニュース

図書館で借りた本を記録できる"読書の通帳"が話題に、子どもの意欲向上にも一役
オトナンサー (プレスリリース) (ブログ)
近年、公立**図書館**を中心に「読書通帳」などと呼ばれる、本の貸し出しデータの印字サービスが導入され、話題となっています。各**図書館**のシステムと連携した機器 ...

関係のないコンテンツを報告

ニュースを見ていると……

- なんとなく見えてくるものもある
  - 新しい話題
  - トレンド（年末年始の福袋とか）
- あと
  - 世の中が図書館をどう見ているのか
  - 図書館の広報のされやすさとか

余談ですが

- 明らかにメディアにうまく働きかけている図書館がある
  ＞日頃からの話題提供
- 報道用資料の用意は重要
  ＞認定司書の報道を見ると資料を参照している

イベントに参加してみる

- 日本図書館協会ウェブサイト「図書館イベントカレンダー」
  http://www.jla.or.jp/calendar/tabid/92/Default.aspx
- 図書館総合展
- 全国図書館大会

2019/03/16

図書館政策セミナー「公立図書館の所管問題を考える」

主催：日本図書館協会図書館政策企画委員会
日時：３月16日（土）13:30～16:00
会場：日本図書館協会研修室
内容：社会教育施設を長部局に移管することへの疑問（鎌水三千男）、資料：公立図書館の所管をめぐるこれまでの動きと今後、質疑応答
参加費：500円（資料代）
定員：60名（申込先着順締切）
申込方法：件名を「3.16.図書館セミナー」とし、以下を記載の上、E-mailかFAXでお申し込みください。１氏名、２所属、３連絡先（電話、E-mailのいずれか）
申込締切：３月８日（金）17:00
問合せ・申込先：日本図書館協会・奏　TEL.03-3523-0816　FAX.03-3523-0841 E-mail：zasshi_at_jla.or.jp

2019/03/09

「図書館情報学教育の現状とこれから」（シンポジウム）

図書館関連団体に参加してみる

- 日本図書館協会
- 図書館問題研究会
- 日本図書館研究会

等々

図書館関連団体は，

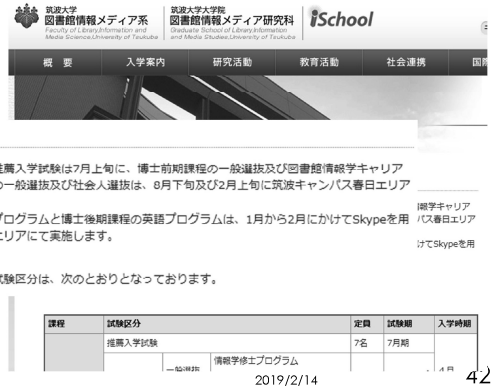
- 性格がかなり異なるので，確認の上
- 会員になっておくだけでも
- 学術よりの団体（学会）もあるが，ハードルは高い
  - この領域は比較的現場の人も多い

学んでみる

- 図書館は生涯学習の場
  - 図書館員自身が生涯学習と無縁という状態では説得力が
  - ハードルは高いので，それなりの動機を持って
- 色々な試みも
  - リカレント講座
  - 社会人大学院

リカレント教育の例

社会人大学院の例



紹介した事例

- 鶴見大学「図書館員リカレント教育推進寄附講座」
  http://blog.tsurumi-u.ac.jp/lib_kifu/
- 慶應義塾大学「文学研究科図書館・情報学専攻」
  http://web.flet.keio.ac.jp/slis/graduate2/index.html
- 筑波大学大学院「図書館情報メディア研究科」
  http://www.slis.tsukuba.ac.jp/grad/admission/

「山登り」段階では

- 自分が情報を発信する
  - 発表する
  - 研修の講師になる
- どこかの誰かが教えてくれる……というのは無理<自らが余人に代えがたい
- 自分でキャリアを作っていく

自らのキャリアを作っていく

- 全く目安も目印もないのは大変
- 一つの目安として，認定司書
  日本図書館協会認定司書事業委員会ページ
  http://www.jla.or.jp/committees/nintei/tabid/203/Default.aspx

制度の概要

- 司書の専門性の向上に不可欠な図書館の**実務経験**，**実践的知識・技能**を継続的に修得した方を，公立図書館や私立図書館の経営の中核を担いうる司書として，日本図書館協会が公的に認定する制度

認定要件（その1）

- **地方公共団体**，日本赤十字社，一般社団法人・一般財団法人の図書館の**職員**，又はこれに準ずる方
- 図書館法第4条に定める**司書又は司書有資格者**

認定要件（その2）－勤務経験

- **司書資格取得後10年の勤務経験**
  - 図書館法第2条に定める図書館
  - 公共図書館，公共図書館以外の図書館，他の類縁機関の勤務経験(補正後)

    の合計
  - 申請時において直近の**過去10年間のうち少なくとも5年**は**公共図書館における勤務経験**

認定要件（その3）－自己研鑽

- 申請時までの10年間に一定の研鑽（20ポイント以上）を重ねていること
  - **研修受講（半日で1ポイント）**
  - 講師経験
  - 社会的活動
  - (大学院)単位・学位取得
  - 学協会活動

認定要件（その4）－著作・その他

- 申請時までの10年間に一定の要件を満たす**著作**（8,000字以上）
- 「図書館員の倫理綱領」の遵守

都道府県立図書館と研修

- 図書館の将来
  - 何らかの資料・情報を収集し，組織し，保存し，提供する社会的機能は文明が成り立ってから常に存在
  - したがって，図書館的な社会的機能は今後も必要
  - ただし，現代の図書館も所詮200年未満の存在
  - 図書館を機能させていくための人材は必要。ただし，今と同じでよいとは全く思えない

都道府県立図書館と研修

- 図書館の将来
  - 一方で現行の法体系の枠の中で図書館として活動

  →現行の枠組み内での図書館の人材の育成と将来の図書館的機能に貢献できる人材の育成

現行の研修

- 図書館職員を対象とする研修の国内状況調査（図書館調査研究リポート　No.5）(2005)
- http://current.ndl.go.jp/report/no5
- かなり古いが重要な指摘

現行の研修の課題

- 「研修」概念の「ズレ」
- 研修事業を実施している側にも、研修を受講する側にも二つの概念が存在

現行の研修の課題

1. 受講生の「個人」としてのレベルアップが目的の研修
2. 「受講生の背景にいる人たちのレベルアップ」が目的の研修

→受講生たちは、1.を求める傾向が強いが，1.に拘っても2.にはつながらない

現行の研修の課題

受講生たちは、日常の業務の展開に直ちに有用な「ハウツー」をターゲットとしたテーマを求める傾向がある。しかし「ハウツー」は、どちらかというと「個人」のレベルアップに有効ではあっても、適切な伝達手段のないところでは「受講生の背景にいる人たち」のレベルアップに着実にはつながらない。その結果、研修事業を実施する側に対して、繰り返して同一のテーマを求めるという事態が生まれてくる。*3

都道府県立図書館の研修

- 業務を回すという意味での基礎的な研修は今後も必要
  - 個人のスキルアップを目的とした研修
- 中堅以上の職員を対象とした研修については，職場に還元できる研修を一定程度志向すべき
  - 「企画力」を養成する研修
  - 現場の改善につなげる研修
  - 図書館に関する見識を結びつける研修

現在の図書館員研修は

- 個人のスキルアップに傾倒しすぎではないか
  - 一方で，ある程度そういう研修でないと私費による参加は期待できない
- だからこそ，都道府県立図書館による研修こそが，「受講生の背景にいる人たちのレベルアップ」が目的の研修を可能とする

もちろん

- 職場に還元できる研修をやみくもに実施すればよいわけではない
  - 受講者アンケート頼みでは，受講者個人の「スキルアップ」が図られる方が評価が高くなる
  - 研修事業の使命の明確化，他の評価軸の導入が必要

参考資料

*1 これからの図書館の在り方検討協力者会議「司書資格取得のために大学において履修すべき図書館に関する科目の在り方について （報告） 」
http://www.mext.go.jp/component/b_menu/shingi/toushin/__icsFiles/afieldfile/2009/09/16/1243331_2.pdf

*2 大久保幸夫「キャリデザイン入門Ⅰ」（日経文庫）

*3 図書館職員を対象とする研修の国内状況調査（図書館調査研究リポート　No.5）(2005)
http://current.ndl.go.jp/report/no5